

Monthly
Company
Magazine

ONDO

月刊 おんど

September 9月
No.516 2020

株式会社
ウチヤ・サーモスタット
UCHIYA THERMOSTAT CO.,LTD.

月刊おんど編集部（総務部）

〒341-0037

埼玉県三郷市高州2-176-1

TEL : 048-955-4181

FAX : 048-956-1310

E-mail : info@uchiya.co.jp

ウチヤ規則の体系、心の欲する所に従えども矩を踰えず

令和2年8月24日

社長 清水 澄人

新型コロナウイルス感染拡大への対応もあり、IoT、AI運用、テレワーク、5G、ロボットシステム運用、等々の国際社会のデジタル化は急速に発展進化を遂げようとしています。然し乍ら、その反面に於いては米国、中華人民共和国、ロシア、英国、フランスの大国(拒否権を持った国連常任理事国)の横暴とも思える覇権主義も顕在化、又、北朝鮮やイラン、等々の独裁政権による軍事国家の台頭や国際対立が激化。その為地球温暖化対策としての二酸化炭素CO2削減や開発途上国を中心とした貧困や飢餓、弱者救済は依然として停滞しています。



このような難しい国際社会の中で我々ウチヤは、ビジネスの70%を海外に依存し、「国際社会に安全とサービスを提供する」と言う使命を持っています。この使命を達成させる為には部材調達、生産活動、営業拡販、新製品の研究開発、完全重要部品としての品質管理、生産技術改善、技術サポートやサービス、等々の活動を協力会社・下請業者、サプライヤー、他関係会社とウチヤ役員並びに全従業員が協力し合い、一丸となってことに当たって行く必要があります。そうした時、自由で基本的人権が保証された筈の社会であっても、自ずと守るべき規律や規則(指導、指針や行動含め)目標の明文化をして置かないと、その徹底は図れません。或いはその認識を共有しておかないと価値観の違いで齟齬が発生します。又、明文化されていても関心がない為に理解してない、何度も「おんど」に掲載されているにも拘らず、ウチヤ社には何も定められたものは無いと、無関心者が残念ながら多々居ます。その為、ウチヤ社で規定している規則(準拠含む)の体系を順番に説明します。ウチヤは余り規則・規則で縛らないで自由闊達な土壌を創って来ましたが、ご案内の状況下では身を守れなくなって来ています。孔子の言う、「心の欲する所に従えども矩を踰えず」自分の思うがままに行なっても、正道(規則)から外れない。聖人孔子70歳の心境を述べたものですが、我々凡人はそうは行きません。以下、ウチヤ社の定めている規則体系を説明します。



1. 経営理念：目的「製品とサービスを通じて社会に安全を供給する。」、方針「環境の変化とニーズに対応して常に新しい方法を考えよう。」
2. 行動規範(コードオブコンタクト)：経営理念に沿った方向で組織文化と社員の行動態度を錬磨する上で、ウチヤグループのすべての役員・従業員の判断の拠り所や取るべき行動を定めたものが、ウチヤ行動規範です。

- (1). 「人々の幸福と社会に役立つ」為に先ず、全従業員の健康、安全、厚生を確保し「健全なる精神は健康な身体に宿る」を肝に銘ずる。
- (2). 「あるべき姿」を論じるだけでなく、具体的な新しい製品や方法を考えたなら、失敗を恐れずに実践して次の発展につなげる。
- (3). 「自由は最大限に尊重されるべきである。」が、各国、地域の法律・規則・規制を遵守した上での行動である。又、他人に迷惑をかけない範囲の活動であることを認識する。
- (4). 顧客及び取引先には安全性、品質、信頼性に於ける高水準の製品の提供と取引先の満足と協力を維持できるように効率的で親切な顧客サービスを行う。
- (5). 国連グローバル・コンパクト 10 原則の実現に協力努力し、行動は常に世界に対応する。

補足:

- ① コンプライアンスを法令・規制・規格・業界自主規制など他律的な社会規範に抵触しないように統制する。
- ② これに対して、企業倫理は、法律上の義務ではないが経営姿勢として社会的に妥当と考えられる措置を自主的に講じること。

例えば、製品の欠陥の届出・公表が法律で義務づけられていればコンプライアンスの問題であり、消費者の安全を考えて自主的に行うのであれば企業倫理にもとづく自主的行動となる。

3. 国連グローバル・コンパクトの定める 4 分野（人権、労働、環境、腐敗防止）10 原則は、いずれも世界的に採択・合意された普遍的な価値として国際社会で認められているものです。この 10 原則への企業としての協力推進をウチヤは宣言しています。2015 年 12 月 12 日に明文化され制定されています。

原則 1: 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである。

原則 2: 企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

原則 3: 企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである。

原則 4: 企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである。

原則 5: 企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである。

原則 6: 企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

原則 7: 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである。

原則 8: 企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである。

原則 9: 企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。

原則 10: 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

4. 会長が積極的に推進された SDGs(Sustainable Development Goals: SDGs)への参加宣言: 我々ウチヤは、2015 年 9 月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた国際社会共通の 17 目標、この目標への積極的な参加を宣言し、りそな銀行経由にて日本ユニセフへの寄附(令和 2 年 7 月)も実行しております。2020 年 2 月 OD で活動を開始、行動指針として正式に制定されています。SDGs は上記 3. グローバル・コンパクト推進の一つです。

目標 1 貧困をなくそう

目標 2 飢餓をゼロに

目標 3 全ての人に健康と福祉を

目標 4 質の高い教育をみんなに

目標 5 ジェンダー平等を実現しよう

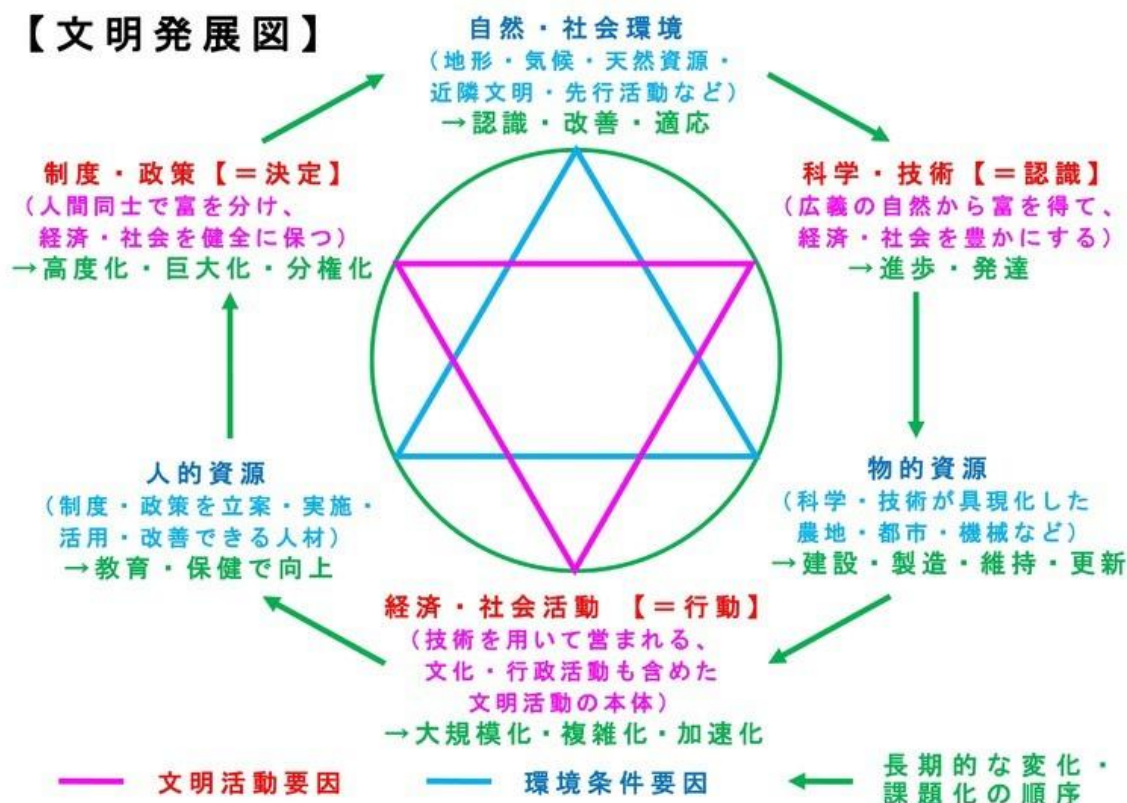
目標 6 安全な水とトイレを世界中に

目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

目標 8 働きがいも経済成長も

- 目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 目標 10 人や国の不平等をなくそう
- 目標 11 住み続けられるまちづくりを
- 目標 12 つくる責任 つかう責任
- 目標 13 気候変動に具体的な対策を
- 目標 14 海の豊かさを守ろう
- 目標 15 陸の豊かさを守ろう
- 目標 16 平和と公正をすべての人に
- 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう

【文明発展図】



5. ウチヤ社就業規則：この規則は社員の就業に関する事項を労働基準法、その他の関係法令に準拠して定めたものであり、この規則に定めていないものは労働基準法の定めるところによる。即ち、労働基準法にその適用が拡大解釈されます。又、この規則を改廃するときはウチヤ・サーモスタット労働組合の意見を聞く、経営者の押し付けではなく、民主的な立場をも取っています。
6. 環境品質方針（ISO 品質環境システムの運用、環境規制や法令遵守、下請法含む）：
 - ①. 製品の安全、消費者保護、公正な取引、環境保護、労働安全、人権保護などの各国関係法令規制及び国際安全規格要求事項を遵守するとともに、企業の社会的責任の下、社会の変化及び要求に適切に対応する。
 - ②. ウチヤに関わる全ての人達の安全、安心と安定的な幸福を得られるよう、自然環境及び経営環境に配慮しながら商品の研究開発及びその設計、製造、購買、品質保証、営業活動などのプロセスの継続的改善を図り、全員一丸となって世界最高レベルの安定的な信頼性の高い製品とサービスを目指す。
 - ③. 品質、環境、業務等の具体的な目的・目標を定め、計画を立て、確実に実行し、その進捗をレビューしながら、その目標達成に全組織をあげて全力で努力する。
 - ④. 製品や製造工程にて有害な化学物質の使用を制限し、且つ資源・エネルギーの節約、リサイクル、廃棄物の減量化により CO2 に代表される自然環境負荷の軽減活動に積極的に取り組む。
 - ⑤. ウチヤ及び構成する人々は、企業市民としての立場からも、その各地域を含めた自然環境及び生物多様性の保全に重大な関心を持ち、社内及びその各地域での自然環境保全活動に積極的に参画し、社

会とのコミュニケーションを計り、その調和に努める。

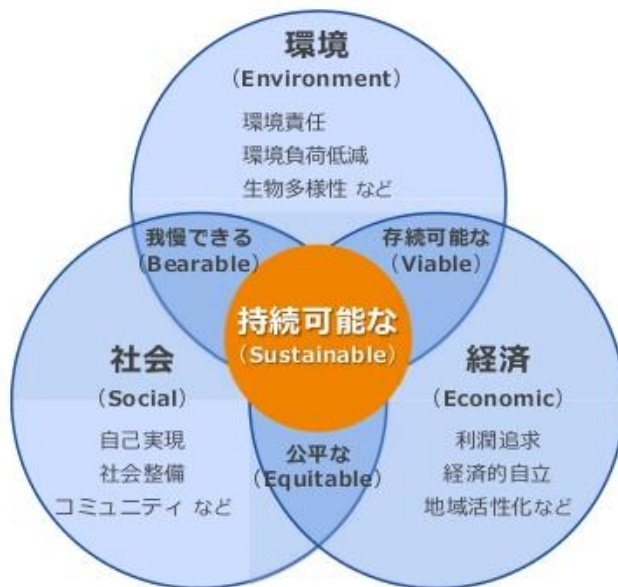
⑥. この経営理念(経営目的)・環境品質方針は全従業員をはじめとして、ウチヤに関わりを持つ全ての人の幸福と平安を願って、周知徹底するとともに、社内報やホームページなどを利用して外部へも広く公開する。

7. お取引先様とは、基本取引契約書を取り交わし、品質に関しては品質協定書を締結しています。又、環境面では環境マネジメントを構築して、化学物質管理規定、禁止物質不使用宣言書、流出量の監視や削減措置、情報開示、等々を行なっています。

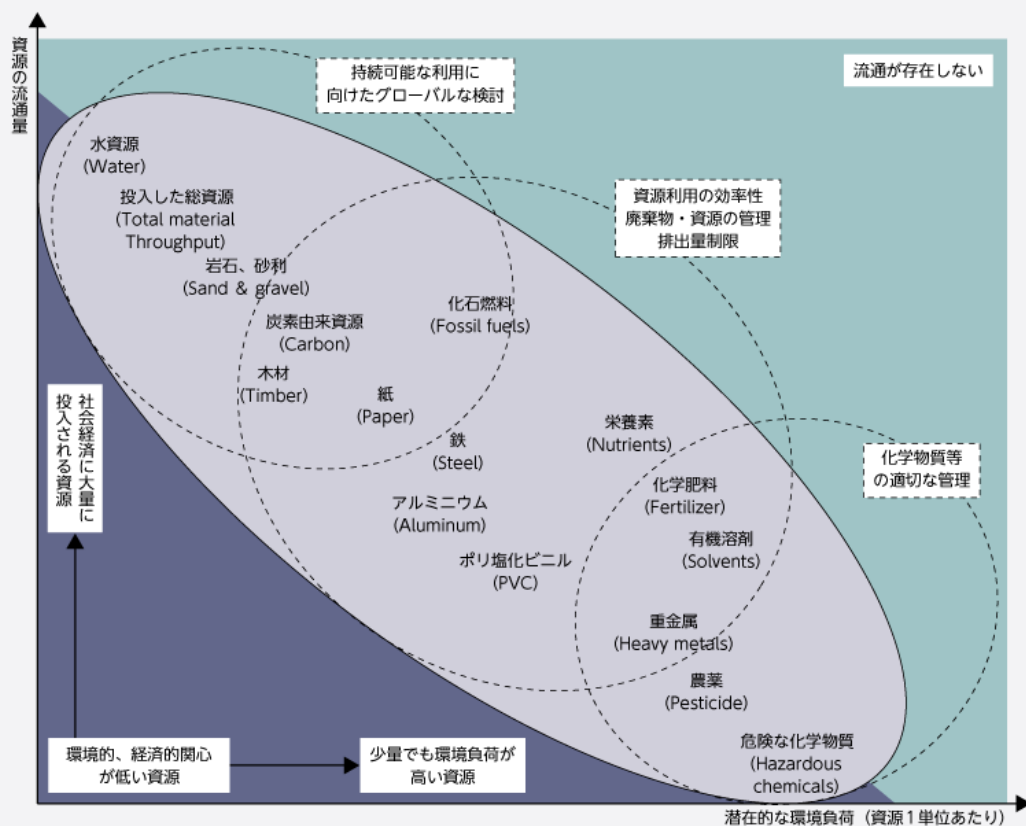
持続可能性の構成要素

cerespo
CEMENT & SPORTS SERVICE

以上



主な資源の流通量と潜在的な環境負荷



資料：Measuring Material flows And Resources Productivity Volume 1.The OECD Guideより環境省作成